

自由民権運動と被差別部落の人々

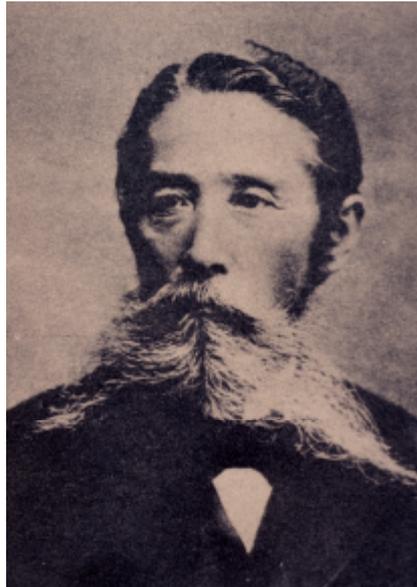
1 目標

- (1) 自由民権運動は被差別部落の人々にも人権獲得の運動をうながし、国民的な広がりをもったことを理解する。
- (2) 西谷平等会などの運動が後の解放運動につながっていったことに気づく。

2 展開

主な学習活動	留意点
1 自由民権運動を起こした板垣退助と、自由民権運動について確認する。	資料1 板垣退助の肖像画(P77) 資料をみせて、知っていることを列挙させる。 自由民権運動とはどのような運動であったのか、その成果と課題について整理する。
2 西谷平等会の活動から、被差別部落の人々の立ち上がり、自由民権運動との関連をつかむ。 ・参加した人々は、どのような願いをもち、どのような社会を創ろうとしていたのか考える。 ・話し合いの後発表する。	資料2 西谷平等会会則(P77) 被差別部落の人々も自由民権運動に関わっていたことを確認する。 自由民権運動にかけた被差別部落の人々の願いに共感して発表しているグループを評価する。
3 発表中のポイントとなる点について確認する。	ポイントとなる点について確認する。 ・解放令以後も差別意識が残っていること。 ・差別意識の中、それに打ち勝とうと行動していること。
4 西谷平等会はその後どうなったか考える。	西谷平等会は、その後どうなったか想像させる。
5 運動のその後について知る。	自由民権運動は衰退するが、人々の願いはその後の大正デモクラシーや、全国水平社創立の運動へつながっていくことを知らせる。

資料1 板垣退助の肖像画



高知市立自由民権記念館蔵

資料2 西谷平等会会則 「土陽新聞」1883(明治16)年6月20日版

西谷平等会(趣旨要約)

土佐郡小高坂村の有志の皆さんより次の会則が送られました。とてもよいことなのでここに掲載します。

土陽新聞記者に贈りましたこの原稿は先日新聞記事にありました西谷平等会に関する事です。この平等会というのは自由をひろめ知識を得ることを目標としています。つまり私たちに江戸時代にえたと呼ばれ不自由であったため十分な学問を受けることもなくぞうりを作ったり牛馬の皮を剥ぐことをしていました。そんな中で幕府が倒れ明治政府となるや少しは通常の間と交際をすすめ勉強をしましたが、いまだに完全に対等の社会ではないと感じています。いまも新平民と呼ばれていて、通常の人たちから抑圧されたために大いに知識を得ることに障害となりまた交際が狭いために近村の有力者をお願いしこの会を作ることにしたのです。今後は日本自由党の一部に加わり共に国家のために力を尽したいと思ひます。そこで貴社に判断していただき雑記事の中へでもこの原稿を載せていきたいと希望します。そこで規則は次のとおりです。

規則書

- 第一 平等を主張し自由を広げたいと決意する。
- 第二 会員は国家に重大なことに死んでも困難に立ち向かう。
- 第三 交際は心をこめて行い道徳に反することはしてはいけない。
- 日金土曜日には読書算術又は演説討論を行うこと。
- 加入を希望する者は本会まで申し込むこと。会長が調べた上入会を認める。